

～表紙絵の植物紹介～

【ツフキ】

10～12月に菊に似た花を咲かせます。葉に艶がありフキに似ているのが名前の由来で、葉や茎は食べられます。花言葉は「困難に負けない」。日陰でも育ち、寒さが厳しくなるこの時期に開花することが由来だそうです。ツフキのように、寒い冬を乗り越えたいですね。

(文:間瀬)



交流の家の取組紹介

【「ササビーの広場(仮称)」の紹介】

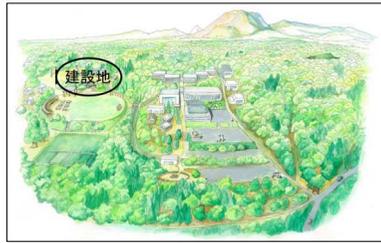


国立赤城青少年交流の家では、キャンプ場に隣接する所に幼児が主体的に遊べる「フィールド」(1600㎡)を建設中で、2019年3月には完成予定となっております。完成後は、保育園や幼稚園の遠足などで利用されます。その「フィールド」では、何種類もの活動を体験することができ、子供たちはターザンロープ、木登りなど各々の種目を体験した後、自由に「フィールド」を遊びまわります。(所要時間:2時間程度)

子供たちはターザンロープ、木登りなど各々の種目を体験した後、自由に「フィールド」を遊びまわります。(所要時間:2時間程度)

1月11日～12日に行われる『育つか・はぐくむ力』をめざして(幼児フォーラム)では、参加された保育園等の先生方に、幼児の運動遊びのプログラムを体験や説明を行う予定です。

(文:田村(文))



◆◆スタッフからの一言◆◆

●先日「『早寝早起き朝ごはん』人材育成事業」に参加しました。早寝早起き朝ごはんの重要性を改めて痛感しました。HPには「ごはん作り」の強い味方も掲載されています。ぜひ参考にしてみてください。キャラクターの着ぐるみもあります。(鈴木)

●ここ数年、何十年ぶりに釣り(エアトラウト)にハマっている。毎週釣行とは行かないので、普段は道具の手入れを趣味しているが、これがなかなか面白い。つい道具にこだわり過ぎて、いつも妻に戒められています。この冬も時間の許す限り、手入れをしたこだわりの道具を使い、楽しい釣行に向かおうと思う。(齊藤)

●お元気ですか?年も明け、今年目標に向かって、スタートしたと思います。昨年の交流の家では、自然による雷、強風等でいくつかの被害がありました。ところで、私の目標は「体力回復」です。体調不良が続き、施設特有の階段の多さに悩まされたので、健康第一に考えて行きます。(佐藤)

重要なお知らせ

日頃からカラゴロリをご愛読いただきまして誠にありがとうございます。春号vol.38から、ホームページを中心に掲載することとなりました。

郵送をご希望の方は下記アドレスまでお名前・住所をお送りください。(E-mail:akagi@niye.go.jp)お手数をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。



←QRコードからもご覧いただけます。

次号は、4月上旬発行予定!

「交流の家HP」「Facebook」で当所の情報を更新中

体験の風をおこそう

国立赤城青少年交流の家 <https://akagi.niye.go.jp/>

TEL:027-289-7224 (9:00~17:00) FAX:027-289-7226

あかぎ カラゴロリ

検索

〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山27 E-mail:akagi@niye.go.jp

風と太陽のくにからの通信誌

カラゴロリ



『新年のご挨拶』

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。昨年一年ご愛顧を賜りましたことに感謝申し上げます。

の中でエネルギーを内にこめている。まさにそうしたイメージが亥年の持つ意味だそうです。亥に木編を補うと「核」となり、内側の芯を意味するというのも、象徴的です。ちなみに猪肉は、栄養価が高く病気予防になることから、無病息災の象徴とされています。

2019年の十二支、亥は、十二支の最後です。植物の成長としては、葉っぱも花も散ってしまい、種に生命を引き継いだ状態が、「亥」です。十二支には、それぞれに季節が割り当てられています。亥の季節は冬です。春の芽吹きまで、じっと固い種

というわけで、今年は、「亥年」ですから成果を出すべく猪突猛進いたします。本年も何卒よろしく願いたします。

所長 松村 純子

【民間企業との連携！】

育パパ&育ママ応援ファミリーキャンプ

11月23日(金)~24日(土)に「育パパ&育ママ応援ファミリーキャンプ」を実施しました。本事業は、民間企業等(国立青少年教育振興機構・東武鉄道・東武トップツアーズ)との連携による教育事業等の質的・量的な拡充を図り、連携モデルを構築することが目的です。参加対象は、幼児(3歳以上)を含む家族・親子で、関東3県から19家族・59名の参加がありました。



参加者は、「特急りょうもう号」や「バス」で乗り継ぎ、交流の家までやって参りました。到着後まず、「わくわく親子運動あそび」では、段ボールで作成した場や遊具を用いた8つの場が用意され、自然の中で思いっきり遊ぶ姿が多くみられました。



その後、「ミニキャンドルファイヤー」が行われ、楽しく踊りました。夜には、国立青少年教育振興機構理事長 医学博士の鈴木みゆき氏をお招きし、「子供が賢く元気に育つには」の講演を保護者向けに行いました。

その間、子供たちは、学生ボランティアによるパジャマへの着替えや歯磨き指導の後、幼児への読み聞かせを行いました。2日目は、ぐんまの森の木の实を使って、親子で楽しみながら世界に一つだけのフォトフレームを作ることができました。また、テント体験・たき火体験でも多くの笑顔が見られました。

参加者のアンケートには、「子供がまた一つ成長したのを実感しました。機会をみてまた参加させていただきたいです。」「普段、体験することのないことをまとめて行えて、密度の高い1日を過ごせて、有意義でした。」等の感想がありました。(文:田村(文))

【体験の風をおこそう！】

体験の風をおこそうフェスティバル

群馬県から「体験の風をおこそう」運動実行委員会では体験活動普及のため、地域の子供たちに体験活動を推進しております。



その一環として12月1日にスマーク伊勢崎にて「体験の風をおこそうフェスティバル2018」を開催しました。洗濯ノリを使ったスライムづくりやかんなどで削ってヒノキ箸をつくるワークショップ、蘭玉や木の实を使ったペンダントづくり、凧づくり、マイフォーク・マイスプーンづくり、カヌーに乗って写真を撮ったりできるブースほか、オリジナル缶バッジづくりなど、8つの無料体験ブースを提供しました。



各ブースとも人の途切れる時間が無く、自分でつくった作品を大事そうに持った子供たちや、わが子の嬉しそうな表情を何枚も写真におさめる保護者の方々に大賑わいでした。

また、「こうしたイベントにはどうしたら参加できるのか」という問い合わせも複数あり、体験活動への関心を高めることができました。全体で2,897名の方が来場し、大成功でした。(文:丸山)

《番外編：新ササビー登場》



交流の家のマスコットキャラクター「ササビー」が新しくなりました。群馬県内の学生から公募し、選考の結果、太田情報商科専門学校 箕輪 茜さんの作品が最優秀作品に選ばれました。新ササビーを今後ともよろしくお願いします。

これからの動き

下記の事業の詳細はこちらまでお問い合わせください
☎ TEL: 027-289-7224(国立赤城青少年交流の家)。ホームページにも随時掲載します。

■「体験の風をおこそう」フェスティバル2018
1月26日(土) 10:00~16:00
会場 イオンモール高崎

群馬県から「体験の風をおこそう」運動実行委員会主催で、かんな箸作りやマイスプーン・マイフォーク作り、缶バッジ作りなど、とても楽しいブースがたくさん出展します。参加費はすべて無料です。

■かんな箸・缶バッジづくり体験
2月2日(土) 10:00~15:00

群馬県館林市にあるアゼリアモールにて、かんな箸づくり体験(先着100人)・缶バッジづくり体験を開催します。
参加費無料です。
近くにお住まいの方はぜひ遊びに来てください。

■小学生ラグビー交流会
3月16日(土)~17日(日)
1泊2日(チーム単位、4年生以上の小学生)

元日本代表選手であった、ワイルドナイフスポーツプロモーションの三宅敬氏はじめ、豪華な講師陣をお招きし、群馬県内外のラグーマン達との親睦を図ります。

【利用者からのお手紙や活動の様子を紹介します】

利用者みなさま

10月・11月・12月は以下の団体・学校の方から心温まるメッセージをいただきました。

東京都立永福学園
流山市立東小学校
柏市立旭小学校



すべてのメッセージは紙面の都合上、ご紹介できませんので、一部ご紹介いたします。

千葉県柏市立旭小学校の児童さんからは「はじめての野外炊事で火をおこしたのが楽しかった」、「交流の家で学んだことを生活にいかしたい」という感想をいただきました。素敵な感想をたくさん書いていただいた用紙といっしょに、折り紙で作った千葉県のゆるキャラ「チーバ君」と龍が入っていました。手作りのものは、思いが伝わってきても嬉しいですね。

交流の家での活動が皆さんのこれからの生活に活かされることを職員一同願っております。



(いただいたメッセージは所内に掲示させていただきます。)

交流の家を見る

国立赤城青少年交流の家で活躍する、非常勤講師やボランティアの方が交流の家の魅力を紹介します。

【スーパー竹とんぼ】

皆さんはスーパー竹とんぼって知ってますか?その名の通り普通の竹とんぼより高く飛ばすことができ、飛距離も遠くに飛ばすことができる進化した竹とんぼと言えます。

でも、スーパー竹とんぼの魅力は、それだけではないのです。

実は、作り方を習い、幾つかの道具さえあれば、職人のような技術が無くても、自分だけの素敵なスーパー竹とんぼを作ることができます。ですから、交流の家の創作活動プログラムの中でも、自分で作って遊べる、このスーパー竹とんぼ作りは大変人気があります。



また、この創作活動の魅力は、作る過程において小刀やノコギリなど普段あまり使わない道具の安全な使い方を学ぶことができることです。刃物は正しい使い方を学べば、安全かつ利便性の高いものになります。

交流の家を利用される際には、このスーパー竹とんぼ作りを活動プログラムに加えてみてはいかがでしょうか?



(文:角田 正基(研修指導員))

料金等改定のお知らせ

来年度より、あかぎアドベンチャープログラム(AAP)の特定研修活動指導料(有料講師代)が3時間1万円となります。

また、平成28年8月24日の閣議決定に、「消費税率10%への引上げの施行日を平成31年10月1日とする。」とあることから、消費税率引上げが実施された場合には、施設使用料金等の改定を行う予定です。

具体的な施設使用料金等については、追ってお知らせします。ご理解、ご協力をお願いします。



(文:丸山)

赤城山ツーリズム 第11回

覚満淵やその周辺ではサワギキョウやツルコケモモなどの希少な植物を保護するため、鹿の侵入柵防止ネットを設置したり、ニッコウキスゲやフレモコウなどの多様な草本植物を保全するためにササ刈りを行ったりして自然保護活動を行っています。これらの保護活動の成果を検証するため、毎年夏に覚満淵の自然観察会などのツアーが実施されています。

赤城山周辺地域の住民が一体となって、この貴重な自然環境の共有を図り、その価値を保全するとともに、歴史的・文化的資源の有効利用も含めて、地域振興を図ることができる持続可能な地域づくりを目指すことを基本理念として、平成27年2月に「赤城山エコツーリズム推進協議会」を発足しました。そして平成30年9月10日に、協議会で策定した「赤城山エコツーリズム推進全体構想」が、環境大臣、国土交通大臣、文部科学大臣及び農林水産大臣の認定を受けることができました。

(赤城山エコツーリズム推進協議会 会長 吉田龍司)